令和６年度 山口県立下松工業高等学校（定時制） 学校評価書　校長（　大田　真一　）

1 スクール・ミッション、学校教育目標

【スクール・ミッション】
生徒の多様な経験を生かしながら、計画的・効果的なキャリア教育や、専門知識・技術の習得に向けた実践的・体験的な教育活動等を通して、社会から愛され、社会の一員として地域産業に貢献し、自立して社会を生き抜くことができる人材を育成します。

【学校教育目標】
重点努力目標・・・・・・・・・・・ 地域産業を担う人材の育成 『凡事徹底』
①【学習指導】 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
②【生徒指導等】 人間力の向上（自ら気づき、考え、行動できる人）
③【校務分掌・その他】 教職員の協働体制による組織力の向上

チャレンジ目標・・・・・・・・・・・『クラスの欠席0の日、年間100日以上』・『授業中のルールの徹底と挨拶の定着』

2 スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー （育成をめざす資質・能力に関する方針）	1. 社会に貢献できる工業技術者を育成する。 2. 何事も最後までやり遂げようとする強い意志をもった人材を育成する。 3. 基本的な生活習慣を身に付けており、主体的に行動できる人材を育成する。
カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針）	1. 実習科目をはじめとする機械科の専門科目を多く開設し、工業の基礎・基本を身に付ける実践的な教育活動を行う。 2. 資格取得に向けて個人の資質・能力に応じた丁寧な指導を行う。 3. 仕事等と学校の両立を積極的に進め、自己管理能力を育む指導を行う。
アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針）	1. ものづくりに興味をもち、工業に関する学習に根気強く取り組み、技能の習得や資格の取得をめざす生徒を募集する。 2. 学ぼうとする強い意志をもち、学習活動全般に熱心に取り組もうとする生徒を募集する。 3. 規則やマナーを守り、健康的に学校生活を送ることのできる生徒を募集する。

3 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

①学校運営・・・	今年度の入学者は8名と、前年度の3名から2倍以上増加した。今年度も「授業公開週間」「学校説明会」等を実施し、アドミッション・ポリシーに合致した生徒を増していきたい。また、多様化する生徒への理解や対応力を高める研修等の充実を図っていく。昨年度、復活させた「ボランティア活動」が好評であったため、学校行事として定着させる。
②学習指導・・・	昨年度は追試を受けることなく全員進級することができた。 少人数で指導が行き届きやすいので、その成果だと思われる。
③進路指導・・・	生徒のほとんどが卒業後に就職を希望している。全体的には、キャリアプラン創造のための意識が欠如している生徒が多いことから、外部講師の招聘や進路希望調査を基にした早期進路先の決定などの方法により、進路全般に係る支援が必要である。また、専門高校の特性を活かすために、検定試験の取得を推進したい。
④生徒指導・・・	昨年度の問題行動等は2件、中退者は1名であった。全体としては安定していることからこれまでの生徒指導方針や取組は継続するが、中途退学未然防止のために、出席率と授業に取り組む姿勢の向上を図りたい。また、他人に対する思いやりの心の涵養等の課題にも継続的に取り組みたい。
⑤特別活動・・・	学校行事については必要かつ有効な行事はある程度固定化できた。個々の行事について、生徒会を中心とした生徒主体のより良い実施方法を検討し、完成度を高めたい。部活動については、積極的な活動がみられ、全国大会出場など一定の成果があった。昨年度からは部活動への加入を任意とした。4月現在の加入状況は79%となっており、部活動への加入率を高め、活動を活性化させたい。
⑥健康安全・・・	スクールカウンセラー（SC）との連携を図り、生徒の実態に即した指導を行うことができた。また、生徒の「心の健康」に配慮し、いじめや不登校、中途退学等の未然防止に努める。生徒の健康に関する意識向上のため、「保健だより」の発行等従来の業務は継続する。
⑦業務改善・・・	校務分掌におけるICT化の推進、効果的なOJT、校内研修の充実等を進めてきた。また、職員室の良好な人間関係を維持し、互いに意思疎通を図りながら、教員間の協働体制ができる環境になってきた。今後は、年休等をより取得しやすい職場にしていきたい。
チャレンジ 目標　・・・	昨年度は、全学年で『クラスの欠席0の日、年間100日以上』を達成。全体の出席率も93%であった。仕事を終えてから登校する生徒や、以前は不登校であった生徒が多いが、とにかく休まず登校することが大切だと生徒に伝えている。「授業規律の確立」も定着してきたため、今後は「自主的な挨拶」に力を注ぎたい。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

①学校運営・・・	家庭としっかり連携して、基本的な生活習慣を身に付けた工業技術者を育てていく。学校の様子を「定時制通信」と「保健だより」で家庭にお知らせし（毎月配布）、ホームページにも掲載する。また、ICTを活用した「教員の授業力向上」にも積極的に取り組む。多様化する生徒への理解や対応力を高めるため、生徒情報の共通理解を図り、きめ細かな指導を全教職員で実践していく。
②学習指導・・・	重点努力目標にもあるように「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得」を実行するために、より良い授業の工夫を各授業担当者に求めたい。 昨年度指摘を受けたように、より実践的な資格取得に結びつくような授業のあり方を、特に工業科について工夫していきたい。 また、これまでも成果が上がっている個別指導・小テスト等については継続して取り組むこととする。
③進路指導・・・	キャリア教育の充実を図るため、全日制や関係機関との連携を密にし、卒業予定者にあっては早期の進路先決定を、在校生にあってはライフプラン創造の足掛かりを築くことができるよう努める。また、進路指導にかかる情報について職員間で共有し、担任を中心に適切な指導や助言を行う。就職のミスマッチングを防ぐためSCによる就職カウンセリングを行う。検定試験の取得率が高まるように取り組みたい。
④生徒指導・・・	全体としては安定していることから、これまでの生徒指導方針や取組は継続する。現在実施している登校時の見守りも継続して行い、生徒との対話やコミュニケーションを重視して信頼関係を構築する。 毎月の情報交換会や、日常的な生徒観察および情報共有により、全教員で連携して、少人数を生かしたきめ細かな指導を行う。
⑤特別活動・・・	生徒会活動も盛んになってきており、今後はより生徒が主体となる新しい企画の実施方法を探っていきたい。部活動については、昨年度から任意加入となり、現在の加入状況は79%なっている。生徒からの要望により新設したものづくり部を含め、部活動の加入率を高め、全国大会出場や各種検定の取得など、それぞれの目標に向けた意欲的で継続的な活動を目指す。
⑥健康安全・・・	スクールカウンセラー（SC）との連携を図ることで、生徒の「心の健康」に配慮し、いじめや不登校、中途退学等の未然防止に努める。 生徒の健康に関する意識向上のため、「保健だより」の発行登校時の生徒観察等、従来の業務は継続する。
⑦業務改善・・・	クラウド化に伴い分掌業務のICT活用を積極的に進める。分掌内のOJTを進めていき、効率的に業務を進められる環境を築ていく。また、生徒情報交換会や各種会議等を短時間で終了できるよう、日頃から教員同士で情報共有ができる環境にしていく。
チャレンジ 目標　・・・	『クラスの欠席0の日、年間100日以上』について、引き続き全ての学年が達成できるように継続する。「授業中のルールの徹底」を根気強く定着させてきたことで、集中して学習ができる環境になっているので新入生にも定着させる。今後は、日々の登校指導を通して、生徒の方から自主的に挨拶を行う習慣を身に付けさせたい。

5 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
学校運営	○情報発信・情報収集による家庭・社会との連携・協力の推進	①生徒の職場訪問や保護者懇談会を実施し、社会や家庭との連携を図り、協力体制を構築する。	全校生徒において、 4：職場（バイト先）訪問や保護者懇談会を実施し、十分な協力体制を構築した。 3：保護者懇談会を毎学期実施し、協力体制を構築した。 2：保護者懇談会を年1回程度実施し、協力体制をほぼ構築した。 1：保護者懇談会を実施せず、協力体制の構築ができなかった。	3	全学年が保護者懇談会を毎学期末に実施し、保護者と協力体制を築けた。また、生徒の悩み相談を定期的に行い、不登校にならないように気を付けている。欠席連絡は必ず保護者が行い、無断欠席がない体制である。長期欠席の生徒・・・0名
		②『定時制通信』を毎月発行する。家庭に配布し、ホームページにも掲載する。	保護者への情報提供の満足度が、 4：90%以上である。 3：80%以上である。 2：70%以上である。 1：70%未満である。	2	『定時制通信』を毎月発行し、カラー印刷で学校行事や各種大会結果等を保護者に知らせている。ホームページにも掲載し、スマホで閲覧ができるようにしている。学校評価アンケートの保護者への情報提供の満足度は74%であった。
	○学習環境の整備	③校内施設の安全点検を行い、学習環境を整備する。	4：達成度　100%。 3：達成度　90%以上。 2：達成度　80%以上。 1：達成度　80%未満。	4	学校安全部で校内外の安全点検を含めた見回りを定期的に実施ており、問題点は特に見当たらなかった。すべての学年において、落ち着いて学習ができる環境である。
	○多様な生徒への対応力や指導力の強化	④教職員への研修や情報交換等の充実をはかる。	生徒理解に関する研修や情報交換会を、 4：月に1回行う。 3：学期に1回行う。 2：半年に1回行う。 1：年間1回	4	生徒一人ひとりの情報交換会を毎月実施し、全教職員で生徒に係る情報共有を行った。また、発達障害に関する研修会を年2回実施し、多様化する生徒に対応した学習指導の在り方について全教職員で検討を行った。

6 学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望等	評価
○長期欠席の生徒が0名は素晴らしい。 ○積極的な家庭訪問、安全点検を評価する。 ○生徒情報交換会での職員間の情報共有を評価する。 ○74%の保護者が情報提供に満足していることは一定の評価である。 ○情報提供について、これ以上の方法はなかなか難しいのではないか。どのようなものを望まれているか聞く機会があれば参考にされても良いかも。 ○情報提供による否定的な回答が25～30%ある。SNS等を活用した情報発信をお願いしたい。	A

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評 価 基 準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○基礎基本の確実な定着	①小テストや個別指導を実施し、基礎基本の定着を図る。	4：小テストや個別指導により、期待以上の成果が得られた。 3：小テストや個別指導により、概ね期待どおりの成果が得られた。 2：小テストや個別指導をしたが、生徒の意欲は向上せず、成果が得られなかった。 1：小テストや個別指導をしなかった。	3	粘り強く個別指導を行った結果、欠点保持者は0名であった。今後も個別指導や教材の工夫等により、学習意欲の低い生徒についても目的意識と達成感を持たせる指導を続けたい。	○欠点保持者0名は素晴らしい。 ○高い出席率を保っていることを評価する。 ○出席率が高いことは評価できる。 ○コロナ後も感染防止が続いている中で、出席率が大変高いのは素晴らしい。 ○粘り強い指導の取り組みは見習いたい。	A
	○授業改善の推進	②生徒に対して授業への出席を常に促し、出席率の向上に努める。	4：延べ出席率が、90％以上である。 3：延べ出席率が、80％以上である。 2：延べ出席率が、70％以上である。 1：延べ出席率が、70％未満である。	4	延べ出席率が、1年生90%、2年生92%、3年生94%、4年生87%、全学年の平均は91％であった。4年生で2学期に入院した生徒がいるため出席率が若干低くなっているが、その他の学年は高い出席率を保っている。		
		③授業研究（ICTを含む）を年間3回延べ3名実施する。	4：3回3名実施して、指導方法の工夫に役立った。 3：2回2名実施して、指導方法改善のきっかけとなった。 2：実施はしたが、指導方法の改善につながらなかった。 1：実施できなかった。	4	今年度は工業科において県教委訪問があり指導をいただいた。また、ほとんどの教科で教頭による授業巡回を実施し、指導方法の工夫・改善を実施した。		
進路指導	○キャリア教育の趣旨を踏まえた進路情報の効果的な活用、及び資格取得に向けた学習の充実	①キャリア教育の一環として外部講師招聘に努めるとともに、ガイダンス等を充実させ、進路意識の高揚を図る。	4：キャリア教育指導を通じて、生徒・保護者の満足度が高かった。 3：キャリア教育指導を通じて、生徒・保護者の満足度がある程度高かった。 2：キャリア教育指導を実施したが、生徒・保護者の満足度はあまり高くなかった。 1：キャリア教育指導を実施したが、生徒・保護者の満足度は高くなかった。	3	1学期・・・4年生を対象に山口しごとセンターによる面接指導を実施。 2学期・・・徳山東ロータリークラブの方による講演を実施。 3学期・・・地元企業に就職した卒業生による講話を実施。 また、希望者による工場見学を初めて実施した（参加者4名）。 今後は学校行事（全学年）として地元企業の工場見学を実施し、キャリア教育の質をより高めたい。	○外部講師として、地元の団体や企業の方をお呼びすることは、大変よい取り組みである。 ○卒業生講話、工場見学を評価する。 ○資格取得に引き続き力を入れてほしい。 ○資格取得に学校全体で取り組み、生徒のモチベーションを高めてほしい。 ○危険物乙種4類については、合格者0とはいえ挑戦している志は評価したい。	B
		②検定を含む資格取得への意欲を向上させる。	4：年間計画の活用により、生徒の意欲がとても向上した。 3：年間計画の活用により、生徒の意欲が概ね向上した。 2：年間計画の活用をしたが、生徒の意欲はあまり向上しなかった。 1：年間計画の活用をしたが、生徒の意欲は向上しなかった。	2	全国工業高等学校長協会主催の各種検定試験は、昨年並みの合格率であった。 危険物乙種4類に関しては、合格者は0名であった。		
生徒指導	○人間力の向上	①教員が毎日の生徒の登校を出迎え、積極的に声をかけることで、生徒のコミュニケーション力の向上に努める。	4：毎日、全教員で取り組み、生徒の能力が向上した。 3：毎日、全教員で取り組んだが、生徒の能力向上への効果はわずかであった。 2：毎日、全教員で取り組んだが、効果はなかった。 1：教員の協働体制が不十分で、指導にばらつきがあった。	4	全教員で登校立哨に取組み、生徒とコミュニケーションを取る中で、健康状態の把握やトラブルの未然防止に一定の効果があった。自ら挨拶をする生徒も増え、コミュニケーション力も少しずつではあるが向上してきた。今後も継続して取組みたい。	○先生と生徒が互いに声を掛け合う活動が、コミュニケーションの向上に寄与していることを評価する。 ○登校立哨の実施は素晴らしいと思う。 ○ボランティア活動等、積極的に活動していることを評価したい。 ○いじめについては、引き続き対応を求める。 ○定時制のいじめの発見は、全日制に比べて発見しずらいと思う。アンケート結果だけではわからないこともあると思うので注意をお願いしたい。	A
		②障害者支援施設と連携したボランティア活動を年1回以上実施することで、思いやりの心や社会性を高める。	4：年1回以上実施し、生徒の意識が大きく高まった。 3：年1回以上実施したが、生徒の意識の向上はわずかであった。 2：年1回以上実施したが、効果はなかった。 1：予定通り実施できなかった。	4	市内の障がい者支援施設「松星苑」にて6月に側溝の清掃作業、9月に除草作業を実施した。生徒会を中心に年々主体的に活動できるようになっており、自ら考えて行動ができる生徒が増えてきた。		
		③年5回のアンケートを実施し、いじめや不登校の未然防止に努める。	4：年5回実施し、いじめや不登校の未然防止に効果が見られた。 3：年5回実施したが、いじめや不登校の未然防止への効果はわずかであった。 2：年5回実施したが、いじめや不登校の問題が生じた。 1：予定通り実施できなかった。	4	定時制独自のいじめアンケートと山口県制作のFITを合計で年5回実施し、いじめや不登校の防止に役立てた。生徒からのいじめの訴えもあり、見守りの強化など早めの対応ができた。アンケートだけでなく、少人数を生かした細やかな生徒観察を行い、早期の実態把握及び対応に努めたい。		
特別活動	○学校行事の効果的な運営	①学校行事の運営方法を工夫し、生徒の主体的な活動を支援する。	4：多くの生徒が主体的に取り組み、積極的に活動した。 3：おおむね半数の生徒が主体的に取り組み、活動した。 2：主体的に取り組む生徒もみられたが、少数であった。 1：ほとんどの生徒が、主体的に取り組めなかった。	4	昨年度と同様、コロナ前の学校行事を実施することができた。生徒会を中心とした活動を活性化させ、生徒の主体的な活動をさらに推進させた。今年度も救急救命講習を実施することができた。定期的にAED講習を行うことで、基礎的な知識を身に付け、緊急時の適切な行動力を養いたい。	○大変素晴らしい取り組みなので、引き続き継続してください。 ○生徒の自己肯定感を高める取り組みが進められている。 ○学び多い救命救急講習等の実施を評価する。 ○部活動への積極的な取り組みが素晴らしい。	A
	○部活動の活性化	②部活動への積極的な参加を推奨し、部活動の活性化を図る。	4：多くの生徒が、積極的に活動した。 3：おおむね半数の生徒が、積極的に活動した。 2：主体的に取り組む生徒もみられたが、少数であった。 1：ほとんどの生徒が、主体的に取り組めなかった。	4	「卓球部」は1年生が県予選で準優勝し全国大会に出場した。 「軟式野球部」は県予選を不戦勝で勝ち上がり、西中国大会に出場したが、全国大会への出場は叶わなかった。 「柔道部」は残念ながら県予選に出場できなかった。 「ものづくり部」は技能検定に合格するなど成果を出した。		

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評 価 基 準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
健康安全	○自らの健康管理ができる生徒の育成	①月１回の『保健だより』の発行等により、自ら健康管理ができるように健康に関する意識を向上させる。	4：年間10回以上発行、健康管理の意識が高まった。 3：年間10回以上発行、意識の向上がみられた。 2：年間6～9回発行した。 1：年間5回以下の発行だった。	4	保健だよりを年間12回発行した。昨年度に引き続き、テーマを「こころとからだの主人公になろう」とし、健康管理に必要な情報を提供したり、コロナウィルスやインフルエンザなどの感染症予防に関する情報を周知した。今年度も定期的に身体測定を実施し、体調管理の重要性について継続的に考えることができた。	○身体測定は個人ではなかなか難しいので、定期的に学校で実施されるのは生徒にとって大変ありがたい。 ○保健だよりの計画的な発行を評価する。 ○保健だよりの発行や見守り指導時の毎日の健康チェックなど、健康と安全に対する配慮の姿勢を評価する。 ○家庭での健康管理を推進するべきとは考えるが、引き続き対応して頂きたい。	A
		②教職員の協働体制による登校立哨を実施し、健康観察を行うとともに、生徒の心身両面の健康維持に役立てる。	4：健康観察の際に生徒の状態を観察し、生徒の心身両面における健康維持に十分な効果があった。 3：健康観察の際に生徒の状態を観察し、生徒の心身両面における健康維持にある程度効果があった。 2：健康観察の際に生徒の状態を観察し、生徒の心身両面における健康維持にあまり効果がなかった。 1：教職員の協働体制が不十分で効果的な健康観察を実施することができなかった。	4	全教職員による登校立哨を実施し、生徒の健康観察を登校時に行った。養護教諭と担任が連携し、体調不良者がでた場合には迅速な対応をとることができた。また、生徒の悩みに寄り添い早期に対応することができた。		
業務改善	学校の組織等 ○組織力の強化	①職員会議、情報交換会、科会等を通じてコミュニケーションの充実を図り、組織的な生徒指導や授業改善を実施する。	生徒指導、授業改善に組織的に取り組み、 4：十分な成果があった。 3：ある程度の成果があった。 2：あまり成果がなかった。 1：組織としての取組が不十分である。	4	生徒指導・・・少数精鋭で組織的な生徒指導ができた。普段から情報交換を行うことで、問題行動が起きた際でも、誰もがスムーズに生徒対応をすることができた。 授業改善・・・ICTを効果的に取り入れ、多様化する生徒に応じたゆっくり丁寧な学習指導ができるようになってきた。	○日々一堂に会す時間が少ない先生方において、会議を1時間以内で実施できていることを評価する。 ○大変よい結果である。引き続き継続してほしい。 ○教職員の健康管理を引き続きお願いしたい。また、難しい年代の生徒たちへの対応をこれからもお願いしたい。	A
	日常的な業務 ○会議時間の短縮	②計画的に各種会議を実施し、開催時間の短縮を図る。	1時間以内の会議が全体の 4：100％。 3：80％以上。 2：60％以上。 1：60％未満。	4	毎日行う昼礼の時に、学校行事の説明を行うことで、職員会議を1時間以内に終えることができた。また、職員会議の紙資料も減り、効率的な会議ができた。		
	勤務状況 ○職員の健康管理の徹底	③年休の取得を促進する。また、時間外勤務の短縮を図る。	健康管理や心身のリフレッシュに努め、 4：教員の8割以上が、年休を12日以上取得した。 3：教員の6割以上が、年休を12日以上取得した。 2：教員の4割以上が、年休を12日以上取得した。 1：教員の2割以上が、年休を12日以上取得した。	4	全ての教職員が年休を12日以上取得し、計画的に心身のリフレッシュをすることができた。 全体的に時間外勤務も少なく、殆どの教員が定時退勤ができた。		

7　学校評価総括（取組の成果と課題）

①学校運営・・・　どのクラスも家庭としっかり連携が取れており、何かあれば速やかに家庭訪問を行うなど、良好な関係を築けている。毎月、生徒情報交換会を実施し、教職員間で全生徒の情報共有ができている。昨年度に比べ出席率は低下したものの、全体の出席率は90%を超えており、長期欠席の生徒もいない。「定時制通信」と「保健だより」を毎月配布し、ホームページにも掲載しているが、保護者による情報提供の満足度は74%とまだ低い状況である。

②学習指導・・・　今年度は追試を実施することなく、全員が進級することができた。少人数で指導が行き届きやすいことが、その成果に繋がったと思われる。

③進路指導・・・　卒業後の進路決定に際して、スクールカウンセラーや就職指導員による面接を行った。しかし、今年は例年に比べて卒業後の進路選択に消極的な生徒が多く、進路決定に至らない生徒が見受けられた。今後は、工場見学の実施も必要であると考えている。

④生徒指導・・・　問題行動は4件、中途退学者が2名、いじめの訴えが1件あった。生徒と教員間、または生徒同士の人間関係の構築や、他人に対する思いやりの心を育むことが課題であると感じている。今後もこれらの課題に対して継続的に取り組んでいく必要がある。少人数を生かしたきめ細かい生徒観察や、スクールカウンセラーとの連携によるカウンセリングを徹底し、生徒が抱える問題の早期発見と早期対応に努めていきたいと考えている。

⑤特別活動・・・　学校行事は予定通り実施することができた。今後は、生徒会を中心に生徒主体の内容を検討し、各行事を実施していきたいと考えている。また、部活動についても生徒が魅力を感じるように活動を充実させ、加入率の向上を目指したい。

⑥健康安全・・・　毎月の体重測定や「保健だより」の発行により、生徒の健康に関する意識は向上している。今後も業務を継続し、さらなる意識の向上に努めたい。

⑦業務改善・・・　職員同士が連携を図りながら、生徒指導および授業改善に取り組んでいる。日々の昼礼時間を有効に活用し、職員会議が長時間に及ばないよう工夫を凝らしている。全ての教職員が年次有給休暇を12日以上取得でき、基本的に残業もない働きやすい職場環境を整えている。

チャレンジ目標・・・　「クラスの欠席0の日を年間100日以上達成する」目標については、2, 3学年が達成できた。「授業中のルールの徹底と挨拶の定着」については、アンケート結果より、①授業中のルールを守れているか？肯定的な回答：教員80%、生徒83%②生徒の方から挨拶ができているか？肯定的な回答：教員90%、生徒92%。個人の出席率は良好だったがクラス全体での達成度は50%に留まった。また、授業中のルールと挨拶については満足のいく結果が得られた。

8　次年度への改善策

①学校運営・・・　これまでどおり保護者との連携を密にし、長期欠席を一人も出さない学習環境を築いていきたい。また、生徒の多様化に対応した研修を実施し、ICTを効果的に活用する学校体制を整えたい。全生徒がアルバイトなどで日中就労することを推進する。「定時制通信」や「保健だより」が確実に保護者の手もとに届くよう工夫をしていく。

②学習指導・・・　重点努力目標に掲げられている「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得」を実現するために、各授業担当者にはより良い授業の工夫を求めていく。特に、資格取得に結びつくような授業の在り方については、工業科で工夫を重ねていきたい。また、これまで成果を上げている個別指導や小テストについては、引き続き継続して取り組んでいきたい。

③進路指導・・・　最近、工場などの現場でアルバイトをする生徒が減少し、その影響で製造業系の就職を希望する生徒も減少している。一方で、サービス業を希望する生徒が増えてきている。この状況を踏まえ、学校行事として工場見学を実施し、生徒に工場の職場環境や仕事内容を見学させることで理解を深めてもらいたいと考えている。これにより、工業高校で学んだ内容を生かせる進路選択を勧めていきたい。

④生徒指導・・・　生徒とコミュニケーションを取り、人間関係を築いてから指導にあたっていく。生徒との関わりの中で、他人に対する思いやりの心を育て、さらに人間力を向上させたいと考えている。

⑤特別活動・・・　生徒会活動を活性化させ、生徒主体の学校行事を実施したい。また、部活動については各部の活動を充実させ、生徒が魅力を感じるような活動を行うことで加入率の向上に努めたい。

⑥健康安全・・・　スクールカウンセラーとの連携や教員間での連携を強化し、生徒の心身の健全な成長を促進したい。

⑦業務改善・・・　業務のフルクラウド化を積極的に推進していきたい。毎日記述が必要な「教務日誌」と「保健日誌」をデジタル化することで、ペーパーレス化と業務の見える化を進めたい。一つの分掌に業務が偏らないように、業務の再編を少しずつ進めていきたい。

チャレンジ目標・・・　「クラスの欠席0の日を年間100日以上達成する」ことを目標に、全学年で取り組んでいきたい。また、「授業中のルールの徹底と挨拶の定着」については、引き続き継続し、落ち着いた授業環境と礼儀正しさを身につけさせたい。